

早稲田大学 法学部 英語 講評

| | |
|--------|--|
| 出題形式 | マーク・記述併用 |
| 試験時間 | 90分 |
| 特徴・その他 | 大問は昨年と同じ7題。順番は少し違うが、大問の形式は基本的に同じだった。ただ、Ⅰで段落要約文問題がなくなったのは驚き。法学部の特徴の一つであったのだが…。また、Ⅱが評論文ではなく小説文で、国際教養学部と同じレイアウトで書かれているのがおもしろい。国際教養学部と法学部で同じメンバーが作成することがあるのであろうか？ Ⅵは昨年、純粋な英作文問題がなくなり、グラフから読み取れることを1文の英語で書かせる問題に変更され、今年もこの形式が踏襲された。社会科学部や文化構想学部もそうだが、問題形式が変わると自分そのまの形式である傾向にあるようだ。Ⅶの自由英作文問題も、昨年からⅥに関連した自由英作文問題になった。基本動詞を含んだ熟語を完成させる問題は今年もなかったが、前置詞などを入れさせる問題になっている。文法問題は昨年と同じく出題された。全体の分量は例年通りであるが、考えて書かせる問題が増えているので、例年以上に時間勝負の問題と言えそうだ。ただ、読解問題のレベルは例年に比べるとやさしくなったと言えそうだ。文法問題のレベルは昨年並み。中堅大学で出してもおかしくないレベルの問題であった。 |

〔大問別講評〕

| 番号 | 出題内容 | コメント | 難易度 |
|----|--------|--|-----|
| I | 長文読解問題 | 分量は昨年よりかなり多いが、英文のレベルは易化したと言えそうだ。段落要約文問題が消えたのがこの大問の最大の特徴だ。その代わりに内容一致問題と内容不一致問題が出題された。かなりの長文なので、先に選択肢を見ておくことが肝心だ。固有名詞、数字、時や場所を示す表現、見たことのない表現などを目印にして読み進めるといい。ただ、該当箇所が見つかりにくいし、複数の箇所を見ないといけないものもかなりあるので、情報処理能力が必要だ。ここのタイトル問題は第1段落を読めば正解が出る。最初に本文全体のことをまとめているとわかればいい。ただ、こういうパラグラフリーディングの手法はかなり意識していないとできないので、多少はパラグラフリーディングの読み方も使えるといい。下線部の単語の意味を問うものは難単語に下線が引かれていた。他の学部もほとんどそうだが、いかに前後で類推できるかがポイント。 | 標準 |
| II | 長文読解問題 | 分量は昨年よりかなり多い。小説文なので、評論文に慣れている受験生には知らない語彙や表現が結構あるので、かなり読みにくいと思ってい。設問は、リードのある内容説明問題と空所補充問題、下線部の意味を問う問題となっている。リードのある内容説明文問題はリードの部分をあらかじめ押さえておいて、選択肢の該当箇所をいかにすばやく見つけられるかがポイント。この種の問題はいつもながら面倒。細かな知識と細部まで内容を把握できる繊細さがないと正解が出そうにもない。法学部の読解問題は、文法が直接正解を導く手がかりになることがない設問を出してくるのが特徴だ。発音とアクセントの合体バージョンがなくなった。かなり前から出題されていたが、これで早稲田大学はどの学部も発音・アクセント問題が出ないということになるかもしれない。 | やや難 |

| 番号 | 出題内容 | コメント | 難易度 |
|-----|---------|---|-----|
| II | | 空所補充問題は[1]がおもしろい。one minute ～. The next …「一時は～なのに、次には…」は前の事態が急に変わることを言い、～と…は反対の内容になる。great の反対の意味の語は disaster となりそうだ。下線部の意味を問う問題は例によってかなり難しい語が狙われている。leer at は場面の前後関係から考えても、me が目的語であることを考えても、at があることから考えても、look at に近い意味ではないかと類推できそうだ。 | |
| III | 正誤問題 | 社会科学部や人間科学部の正誤問題に比べれば、かなり解きやすいと思われる。スポーツ科学部に近いレベルか。ポイントは、possible は「人」を主語に取れない形容詞、congratulate A to (do)の形はない、interested と interesting の違い、ill が原則限定用法で使えない、となる。基礎から標準の語法や文法を押さえればどうにかなりそうなので、ここは満点狙いだ。 | やや易 |
| IV | 空所補充問題 | 昨年から空所補充形式で、間違っているものを選ばせる問題がなくなった。普通の空所補充問題だ。ポイントは Usually ～, but …「普通は～だが、…」、look down on ～「～を軽蔑する」、believe in ～「～の存在を信じる」、pay ～ a visit「～を訪問する」で、どれも基本的な問題ばかりの大問だ。 | 易 |
| V | 空所補充問題 | 前置詞を入れる問題。about+数字「およそ～」、spend A on B「A を B に使う」、increase to ～「(結果として)～に増える」、increase of ～「～(数字など)の増加」、差を表す by がポイント。最後の2つが[4]に by を入れるのか[5]に by を入れるのか悩ましかったかもしれない。 | 易 |
| VI | 自由英作文問題 | 昨年、今までの会話文中の英作文とは違い、グラフを見てそこから読み取れることを1文の英語で書かせる問題に変更されたが、今年もそのまま踏襲された。国際教養学部では何度か出されたことがあるが、法学部では珍しい。今後も続くのであろうか？ 自由英作文問題を解かない、つまり捨てる予定の受験生はVIとVIIの両方を捨てるわけにはいかないので、こちらは取り組むことになるのであろうか。 | 標準 |
| VII | 自由英作文問題 | VIに関連したテーマの自由英作文問題。「紙の本がいいか電子書籍がいいか」がテーマ。似たようなテーマは早稲田大学の他の学部で出題されたことがある。a paragraph は例年と同じ。2つの段落にしないようにしよう。数年前までは one or more convincing reasons であったので、1つの理由で済んだのだが、今年は at least two specific reasons となっている。理由を2つは書かないといけないということだ。1つではダメと言うこと。語数50語程度にしないと時間がなくなってしまう。いかに簡単な語彙や構造、文法を使い、やさしく書けるかがポイントだろう。 | 標準 |